

第70回翠巒祭を終えて ～伝統の継承～

6月4日、5日に本校の文化祭である翠巒祭が開催された。新型コロナウイルス感染症の影響により3年ぶりに有観客での実施となった。コロナ禍という逆境の中、見事に第70回翠巒祭を成功へと導いた実行委員長の砂盆諒くん(3の7)に話を聞いた。



第70回翠巒祭実行委員長の砂盆諒くん

「翠巒祭を終えての感想」
3年ぶりの有観客開催を無事に終えられて充実感を感じている。翠巒祭を通じて、「高生生のエネルギー」というものを自分自身も改めて実感した。運営の中心となったチーフ陣はもちろんだが、それ以外

の

の

の

「三角関数よりも金融経済を学ぶべきではないか」。少し前にツイッター上で話題となった主張だ。現役の衆議院議員の発言だったこともあり、すぐさま拡散され、賛否を巻き起こした。

日本の学校教育は俗に「詰め込み教育」とも呼ばれるように、とにかく大量の基礎知識を教え込むことで有名だ。それも、数学の公式や古典の文法、歴史の用語などの、生活を送る上で役に立つとは思えないような知識だ。技術家庭科などの日常生活に必要な知識は副教科として扱われ、主要教科に対し比重は小さい。

「代教や幾何の勉強が、学校を卒業してしまえば、もう何の役にも立たないものだと思うている人もあるようだ。大間違いだ。(中略) 日常の生活に直接役に立たないような勉強こそ、将来、君たちの人格を完成させるのだ。」

論説 学校で学ぶ 基礎知識の意義

「正義と微笑」の中でこう語る。一見何にも活かすことのできな

のメッセージ。
今年度の開催により、「伝統」を何とか繋ぐことができたとと思う。翠巒祭は「高生生の主体性の象徴」だ。今の1、2年生が自分の考えをもとにまた新たな翠巒祭を創りあげてくれることを楽しみにしている。実行委員長の花田智紀くん(2の1)を中心に頑張っ



演奏を終えた3年生

漢組 全国への想い

8月2日から8月4日に練馬区立練馬文化センターで和太鼓の全国大会が行なわれ、高生は8月4日に演奏した。今回の大会への意気込みを部長の須永健介くん(3の5)に聞いたところ、「出場するメンバーは全員3年生なので、受験勉強と両立するため、短い練習を集中して行なっている。また、多くの人からアドバイスを貰い、自分たちの課題をひとつずつ改善してきた。勝負曲である蒼天は、作曲や振り付けを自分たちで行なった個性の詰まった曲なので、どこにも負けない自信がある」と力強く語った。(樋口)

高生生の通過儀礼 赤城合宿を振り返って

高生では例年4月に、「国立赤城青少年交流の家」で、1年生全員を対象とした合宿オリエンテーションが行なわれる。今年度は4月21日から24日までの2泊3日で行なわれた。



鍋割山を登る1年生

1日目は、先生方より各教科の学習と高校生活における留意点や、SSH(スーパーサイエンスハイスクール)の概要についての説明があり、2・3年生からは学校行事の紹介があった。

2日目は、9時から合宿所の近くにある鍋割山の登山が実施された。15時には下山し、その後は翠巒祭のクラス企画を検討した。夜には応援部から校歌と翠巒(応援歌)の指導があった。3日目は、高生卒業生

(新井)
